　『学校発・ＥＳＤの学び』には、空論は無い。（日本ＥＳＤ学会第一号紀要上にて）手島

**全て、自分で悩み、共に考え、実践し、伝え合い、そして振り返る営みの中から生まれたものである。だから、この本には学校の授業を変える力がある。**

**学校教育の場にＥＳＤの指導者として入っている大学の先生方、研究面・実践面でご苦労をされている学校現場の先生方、教員養成系で指導している先生方、教員免許更新研修での指導者の方々、新しい時代の授業づくりに向けて、大いに参考にしていただきたい。ＥＳＤの理解できないない教員は不要な時代なのである**

**また本書には、一人の人間が校長として学校を良くしようと、もがき、働きかけ、育て、喜びを共にしてきた日々が記されている。だからこの本には、寄せ集めでない一貫した学校経営への悩みと歩みが書かれている。それは後進校長の指針となり、勇気づける力にもなる。校長先生方の参考になればうれしい。**

**江戸時代から続いている日本の教育の良さを大事にしながらも、それだけにしがみついて、世界の潮流から２周遅れになっている日本の教育の現状に気づき、動かそうとしない限り、この国に未来は無いのだ。**

**新しい学習指導要領が「持続可能な社会の創り手の育成」を重要な課題として掲げている中で、「基礎・基本の充実、学力向上」しか考えられない校長や教育行政の責任者は、法令の遵守を考えないという意味で、これからの学校を担う資格に大きく欠けていると思う。**

**さて、私は、社会科の優れた指導者を目指していたはずの人間だった。それがふとした契機からＥＳＤに目覚め、「持続可能な世界の実現」に向けて歩み始めてしまったのである。**

**ユネスコスクールの一員として、どのような実践をしたらよいのだろうか、それは学習指導要領の中で許されるのだろうか、いくつかの授業実践だけでＥＳＤに取り組む学校と言えるのだろうか、学校全体で取り組むにはどうしたら良いのだろうか。少なくとも日本の全ての学校教育で取り組まなくては、とても世界を変えることなどできるはずもない。そして、世界にはどのように発信したら良いのだろうか。**

**そんな視野に立ち、仲間を増やし、成果を積み上げ、学習指導要領改定に向けた地道な取り組みも進めてきた。また、ＥＳＤカレンダーも、「学びに火をつける」指導のあり方も、対話を重視した学びも、ＳＤＧｓ実践計画表も生み出してきた。この本には、ＥＳＤ推進の理念もノウハウも詰まっている。**

**持続可能な世界の実現に向けた教育のあり方として発信さえすれば、各国で活用できるものがたくさんある。**

**世界に向けた様々な発信力を私以上に有している方は、これを上手くアレンジして発信し、世界を巻き込んで欲しい。**

**国境を越え、人種や民族を越え、宗教を越え、自国第一主義の独善的な世界観を越え、持続可能な世界を維持・発展させていくには、対話を通じて世界の現状やその課題への認識を共有し、その解決に向けた学び合いや協働が欠かせない。思考力・判断力・実践力とコミュニケーション能力の育成に動き出すことが世界の課題なのである。**

**私の勤める江東区立八名川小学校は、２０１７年末に内閣総理大臣が主催するＳＤＧｓ推進本部から、第１回ジャパンＳＤＧｓアワードの特別賞を受賞した。このことは、ＳＤＧｓ**

**推進における教育の重要性を示すとともに、ＳＤＧｓ推進を視点とした日本の教育改革に八名川小学校や、ユネスコスクールの果たしてきた役割が高く評価されたものと考える。**

**やはり、安倍首相を中心とする日本政府がＳＤＧｓにおける教育実践（ＥＳＤ）の重要性を改めて認識し、国内への浸透を図るだけでなく、トランプ氏をはじめとする世界の首脳をその気にさせ、教育を通じて各国国民の、持続可能な世界づくりに向けた意識改革を進めていかなくてはならない。**

**成果主義・競争主義的なＳＤＧｓの推進だけでは、本気でこれに取り組む人財を育てることができないからである。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　著者：手島利夫**

**つづいて、諏訪教授の推薦文・保護者のお声です。**

**↓**

**↓**

**↓**

**↓**

**↓**

**（都政新報社、掲載用）**日本環境教育学会会長：諏訪哲郎様

**手島利夫著『学校発・ＥＳＤの学び』**（教育出版、2017年12月30日発売）

**ズバリ、本書は、現役校長とこれからの校長への熱い勧誘メッセージである。**

**江東区立八名川小学校の校長を8年間勤めた指導経験に基づいて、学校教育にESD（持続可能な開発のための教育）を導入することがどれほど重要で、どのような効果をもたらすのか、どのように導入すれば質の高いESDを実現できるのかが、きっちりと述べられている。ESDカレンダーの組み立て方や「学びに火をつける」具体的な方法についても、またESDの導入によって「学力が後からついてくる」事実についても丁寧に説明されている。**

**2015年の国連持続可能な開発サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、今や世界中の産業界にも大きな影響を及ぼし始めており、日本でも日本経済団体連合会が2017年11月に「企業行動憲章」を改訂し、SDGsの達成への協力姿勢を鮮明に打ち出している。日本政府も「ジャパンSDGsアワード」を設けてその推進に貢献している団体等を表彰しはじめており、八名川小学校は昨年末に第１回ジャパンSDGsアワード特別賞を受賞している。本書から伝わってくる同校の質の高いESDへの取り組みを見れば、受賞も当然と納得させられる。**

**本書では、学校教育が社会の趨勢から取り残されないために、時代の流れを的確にとらえた校長のリーダーシップが如何に肝心であるかという強い思いが、時に舌鋒鋭く飛び出している。その一端を一部省略して紹介すると、「残念なことに東京都では、東京都中の校長を集めて、徹底してドリルでトレーニングしなさいという指示が出ました。ほんとにこれで学力は高くなると思っているのかなあと私はびっくりしたんですよ。」とか、「これからはカリキュラム・マネジメントと主体的・対話的で深い学びが大切になる。みんなで総合を中心に取り組んでみたらと方向づけをしてください。それが校長の一番重要な役割です。この一言を言えない方には、早々に退職してもらいましょう。教科や領域は、教育の枝葉です。」といった勢いである。しかし、本書の基調になっているトーンは、「これからの社会の大きな転換に学校が対応するには、校長がしっかり舵取りをしなければなりません。一緒に取り組みましょう！」という勧誘である。**

**次期学習指導要領でも「持続可能な社会」が強調されており、今や学校教育の主軸は「持続可能な社会」の構築に転換しつつある。**

**（諏訪哲郎：日本環境教育学会会長）**

八名川小学校　手島利夫校長先生（保護者Ａさんからの手紙）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　保護者の声

「ジャパンSDGｓアワード」の特別賞受賞、おめでとうございます！！

わが校のお子さんが総理大臣とご一緒に写真に！おどろきました！

すごいですね。

もちろん、この受賞はわが校のみの宣伝はなく、SDGｓにおける「目標４教育」の重要性が忘れ去られないために、という真意も理解したうえで、ほんとうにおめでとうございます。

さらに、『学校発・ESDの学び』のご出版、誠におめでとうございます。

待望の本、私も早速、年末に購入させていただきました。

素晴らしいご本でした！！

手島先生のESDに対する熱意、そしてリアルな実践のご様子、

ESDの実践を通して、子たちと共に変わっていこうと力を尽くしていらっしゃる

先生方のご様子が伝わってきて、とても感動しました。

手島先生は「読み物でも読むように気楽に」とのことでしたが、まず、ただでさえ難しい教育の、わかりにくいESDについて、「読み 物でも読むように気楽に読める本」をご執筆なさったこと自体に感動いたしました。

「語りかけるように」なんて、さらりとおっしゃいますが、なかなか書けないものです。

手島先生の元々の文才はもちろん、観念的なことではなく、地に足の着いた実践について、等身大で綴っておられるからこそ、伝わってくるのだと思います。

私はこれまで授業研究に参加させていただき、先生方の実践のご様子に触れさせていただいていましたが、やはり私の器ではとらえきれない部分、先生方の実践の試行錯誤の部分が詳しく綴られており、感動もひとしおでした。

特に、164頁からの学校内でESDを根付かせていくための手島先生ご自身が認識と方法を変えるべく模索していかれるお姿に、ESD教育というものの底力を感じました。

ただ大人が子どもに与える教育というだけでなく、一緒になって変容していかれようとするお姿が綴られていたからです。

黄地先生、鵜野先生、吉岡先生のコラムやコメントにもそうしたお姿を感じ、このような先生方にわが子が関わっていただいたことに改めて感謝いたしました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　また、52頁からの「総合的学習の時間」に関するご見解では先人への敬意を示されており、ESDが、日本の教育の中で降って湧いたような、とってつけたような話ではなく、心ある教育者の中で受け継がれ、培われ、新たな糸で編み上げられているものであると感じました。

PTA新聞での「ユネスコスクール特集」のことを先生は折に触れて取り上げてくださいまして、当時、広報部にいた一人として、うれしく思っています。

あのときの広報部も実は「奇跡の広報部」だったのです。部長の川崎さんのリーダーシップのもと、ユネスコスクール 特集をすることにはなりましたが、何をどう取り上げていいのか、悩みました。

「なんかむずしいから、“むずかしいそう”って書こう」

「ユネスコの組織図とかいれる？」

「でもそれが本論ではないから、小さくする？」

「六年生の先生にはコメントをもらおう」など、

担当になった方々といろいろ試行錯誤しました。

国連もユネスコもESDもすごいとは思いましたが、最終的には、「わんぱく相撲でいっしょうけんめい応援してくださっている校長先生を私たちも応援しよう」という気持ちが原動力でした。

つまり、139頁にあるように、教育の本質に向かって改革を進めるために地域や保護者や子どもたちに向けてできることのすべてをなさっている手島先生のマジックがもたらしたものだった、と振り返っています。

こうして一冊の本としてまとまることで、これまで断片的に「よい教育だ」と認識なさっていた方々の心に火がついて実践の輪が広がっていかれるのではないでしょうか。そう願っております。

学校経営の現場では、一筋縄ではいかないことだらけだと、私も保護者としてお察しいたします。それでも、あとがきに書かれていたように、

「夢の学校づくり」に取り組まれていこうとなさる先生方のお姿は子ども達の心のどこかに残り、みんなの人生のどこかで支えとなるのではないでしょうか。

本年は明けたばかりですが、本年度はあと３カ月弱となりました。

八名川まつり、パワーアップ交流会、卒業式を控え、現在の「チーム八名川」での学校生活の一日一日を親子ともども大切に過ごしたいと思います。

引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成30年１月　　保護者　A

Aさんは八名川小学校のこの何年間かのほとんど全ての校内研究会に参加され、

求められれば保護者の立場からご意見をくださっていたかたです。八名川小学校では、常に地域や保護者、あるいは世界に向かって研究の門戸を開いておりました。